

中国の大学における日本文化に関する授業の現状 —上海の大学の調査から—

河野 理恵

要旨

本稿は、中国語圏の大学において日本文化に関する授業がどのように行われているかをテーマとして、上海の大学で実施した調査をまとめたものである。調査の具体的な内容は、①日本文化に関する授業の特徴を把握すること、②日本語学科の学生にインタビューを行い、学生の日本文化の授業に対する評価を尋ねると同時に、それ以外の日本語授業からはどのような日本文化を学んでいるのかを把握することである。①については、「歴史」が一番多く扱われるトピックであること、特に古代史では聖徳太子が中国文化受容のキーパーソンとして大きく取りあげられていること、また、日本は単一民族国家であると教えられていることなどが明らかとなった。②に関しては、学生の約60%が日本文化の授業は日本についての一般的知識が学べるという点で「役立つ」と評価しており、他の日本語の授業からは日本の日常生活について多くを学べると認識していることがわかった。

キーワード：日本文化 日本概況 日本事情 多様性 コミュニケーションスタイル

1 調査の概要

本稿は、日本の大学で留学生が受講する日本文化に関する授業（「日本事情」等）に相当する授業が、中国語圏の大学ではどのように行われているかについての第1回目の調査の報告である。調査は2009年9月2週間にわたり上海の3大学で実施した。調査の具体的な内容は、①日本文化に関する授業およびシラバスからそれらの授業の特徴を把握すること、②各大学の日本語学科の学生にインタビューを行い、学生の日本文化の授業に対する評価を尋ねると同時に、日本文化以外の授業についても質問し、それらの授業からどのような日本文化を学んでいるのかを把握することである。長谷川他（1998）は1996年から翌年にかけて「日本語教育における『日本文化』の扱いについて」という質問紙調査を郵送により海外で実施したが、現地での「日本文化」の授業の実態調査は行っていない。本稿の目的は、上述した調査を基に、今後、北京・成都・長春・大連・香港・台湾で行う予定の調査において留意すべき点を洗い出すことである。その上で最終的には中国語圏の大学における日本文化に関する教育の傾向を整理して課題を明らかにすることを目指す。

2. 調査方法

上海の3大学A、B、Cにおける日本文化に関する授業の見学を以下のとおり行った。学生への日本文化の授業についてのインタビューは学生に自由な意見を語ってもらうた

め、準備した質問を臨機応変に尋ねる「半構造的面接調査方式」をとり、1人当たり40分から1時間かけて行った。今回の調査で、日本の大学の「日本事情」にあたる科目は、1、2年生を対象とした「日本概況」という授業であることが判明した。他に3、4年生を対象に「日本概況」よりも内容が深い「日本文化」等の科目も開講されていた。そのような科目がある場合には、その授業見学も行った。見学した授業は以下の通りである。

- (1) A大学の日本語学科2年生の「日本概況」（半年間）（日本人教師が日本語で授業）
第2回目と3回目
- (2) A大学の日本語学科4年生の「日本文化」（半年間）（中国人教師が日本語で授業）
第2回目と3回目（5名の教員のオムニバス方式）
- (3) B大学の一般教養の「日本概況」（半年間）（中国人教師が中国語で授業）
日本語学科以外の学生が対象 第2回目と3回目
- (4) B大学の副専攻（日本語）の「日本概況」（半年間）（中国人教師が中国語で授業）
日本語学科以外の学生が対象 第2回目と3回目
- (5) C大学2年生の一般教養の「日本概況」（半年間）（中国人教師が中国語で授業）
日本語学科以外の学生が対象 第4回目

B、C大学の日本語学科の日本文化に関する授業は、1学期（9月から1月の学期）には開講されていなかったのを見学ができなかった。しかし、(3)の内容はB大学の日本語学科1年生の「日本概況」と同じものだとのことである。

3. シラバスについて

(3)、(4)のB大学と(5)のC大学の「日本概況」のシラバス、そしてもう1つの9月からの学期には開講していなかった大学（以下、D大学とする）の「日本概況」（半年間、日本人教師が日本語で授業）のシラバス2つ（2009年度と2007年度）の計5つのシラバスについてその特徴を述べる。

- (1) まず、5つのシラバスに載っている授業内容のトピックを以下にすべて挙げる。
()の数字はシラバスに登場する回数である。
歴史(10)、経済(6)、伝統行事・文化(6)、衣食住(6)、地理(5)、政治(4)、教育(4)、祝日と行事(3)、行動様式(3)、自然(2)、行政(2)、民族(2)、交通(2)、宗教(2)、文学(2)、娯楽(2)、生活習慣(2)、環境問題(2)、言語(2)、日中関係(2)、首都東京(2)、若者(2)、年中行事、冠婚葬祭、教養、高齢化と少子化、貿易、天皇、性、医療、世代、漫画、観光、国際意識、ビジネスマナー（以上各1）
- (2) 「歴史」が一番多く取り上げられるトピックである。しかし、「歴史」にかける時間は授業によって1週から4週程度までと幅がある。長時間かけて教える場合は、縄文時代や弥生時代の説明から始まる。筆者が見学した古代史についての回では、一番強調されるのは聖徳太子であった。聖徳太子は中国文明の受容に非常に貢献し

た優秀な人物として紹介され、特に中国からの仏教の受容が太子の重要な業績として紹介されている。授業で指定された教科書や参考書をみても、聖徳太子についての記述が多く、かつ詳細である。一方、日本で出版された最新の歴史教科書では太子は蘇我馬子と共に仏教を重視し、その興隆をはかったとされるが、太子はあくまで馬子と並ぶ推古天皇の協力者とされている。

- (3) D 大学の「日本概況」の教師は若い日本人である。そのためかシラバスには「若者」という単語がトピックとして 2 回、言葉として 5 回出てくる。他のシラバスには 1 回もでてこない。そこには、同世代として、日本の若者について伝えたいという教師の意図が窺える。

4. 見学した授業について

2. であげた順番に沿って授業の特徴を述べていく。受講者数は 30 名から 100 名と幅があったが、すべて講義形式であった。

- (1) A 大学「日本概況」(日本人教師)

①授業は「おはようございます」の起立、礼から始まる。②最初の授業は主に日本のエネルギーについて、2 回目は主に日本の気候、日本の人口についてであった。③日本の民族について、教師は「日本は単一民族ではない」と述べた。

- (2) A 大学「日本文化」(中国人教師)

①4 年生対象の授業で、内容が「日本概況」より深い。教師は筆者に日本人の行動様式は歴史の流れと大きく関係があるため授業では特に「日本文化史」を扱う、とりわけ歴史上「輝いている部分」である「大化の改新」「聖徳太子」「仏教伝来」「西洋文化の伝来」を教えたいと語っていた。②最初の授業は、日本文化の「重層性」「展開性」「形式主義」「現世主義」「協調主義」「物真似志向」、2 回目は「国土と民族」「中国模倣時代」「仏教」「聖徳太子」「国風文化の発展」の講義であった。③日本民族について「日本にはアイヌ民族という少数民族もいるが、単一民族の大和民族である」と述べた。

- (3) B 大学「日本概況」(中国人教師)

①教師は筆者に「日本概況」の授業の問題点として、既存の教科書からの孫引きが多い点と古い教科書が今でも多く使用されている点を挙げ、今の現実の日本をきちんと教える必要があると述べた。②最初の授業は、「日本の政治機構」「地方自治体」「中央政府と地方自治体の関係」「日本地区区分とその特徴」であった。また、日本のお辞儀には 3 種類あり、その角度は TPO によって異なるという説明があった。筆者は日本のインターネットでお辞儀を調べてみたが、やはりお辞儀は 3 種類あるとされていた。このようなことには外から日本を見る人のほうが意識的なのだろう。③2 回目の授業は「経済と貿易」であり、明治維新から現在までの経済政策や

データが紹介され、NHK制作の「日本を理解する鍵1」というDVDも使用された。このDVDには洪沢栄一とおしんの人生の節目が織り込まれ編集されており非常にわかりやすい。この二人の人生を通して、日本の近代化に大きく貢献したのは日本人の好奇心・向上心・教育の重視であるというメッセージが発せられている。授業でDVD等の動きのある媒体を使うと学生は興味を持つことを教師は心得ており、教材選びに工夫をしていた。

(4) B大学「日本概況」（中国人教師）

①授業の最初は「みなさん、おはようございます」と日本語の挨拶で始まる。その後、教師は日本人はよく挨拶をし、また「礼」を重んじることを強調した。教室の一番前で飲食をしていた学生に対し、日本は教室の中は飲食禁止なので、今後はやめるように注意をしたり、日本語学習だけではなく日本人の考え方、生活様式等も把握しなければだめだと述べ、遅刻した時は後ろから入ってお辞儀をするように言った。②最初の授業は、まず富士山と桜の説明で、それらは日本の象徴であると述べた。富士山は神山として非常に精神的なものであり、桜は咲いている時間が短く、これは日本人の精神の象徴、自己犠牲、神風特攻隊に通じると述べた。また、花見の目的は飲酒であり、これは集団主義の現れであるとの説明もあった。次に、東京の地下鉄は非常に発達していて車を使う必要がないという話に続いて、自家用車をもつことに対する中国人の意識を学生に問い、中国での車の所有は富を誇示するためであり、この意識は改めなければいけないと述べた。更に、銀座は東京で一番地価が高い所でブランド品店が並んでいると述べ、ブランド志向はつまり欧米への憧れであり、これについては日本も中国も欧米ブランド品を買いたいと思うより、国産品をいかに世界ブランドに高めていくかが必要であると語った。最後に、ゴミ問題を挙げ日本のゴミ分別の詳細な説明があった。この後、環境問題に話が移り環境保護には自己犠牲、自己意識を高めることが大切だとされた。こうした内容は、日本人の行動様式を説明するのと同時に、中国人の文化的素養向上を促す試みでもあると筆者は感じた。また、授業の半ばで「東京夜景」のDVDを見せた。(3)の教師と同様、教材選びに工夫がなされている。③2回目の授業は、ホームレス問題、日本の愛国主義についてであった。愛国主義については学生に「本当の愛国とは何か」をよく考え、外国では中国人としての行動に気をつけるよう求めていた。続いて、「日本の歴史」（縄文時代から平安時代）の解説があった。ここでもやはり、日本は単一民族であり、アイヌ民族が北海道にいただけだと説明された。

(5) C大学「日本概況」（中国人教師）

「日本歴史概論」と「日本歴史区分」が中心で、日本と中国の時代区分の対照表が示された。PPTを使った縄文・弥生時代、邪馬台国の説明であったが、内容は教科書とあまり変わらなかった。また、教師は日本について、アイヌ民族もいるが単

一民族であると説明した。授業の後半は学生のテーマ発表である。毎回、4、5人が日本文化についてテーマを決め5分から10分間発表をする。この日は4つの発表があった。1つ目は「日本の長安」についてで、ここでも聖徳太子が登場し太子の優秀さが強調された。2つ目は「アニメの歴史」であり、アニメの時代区分と各々の特色やアニメ制作会社の特徴が詳細に報告された。3つ目は日本の映画、4つ目は日本文学についてであった。筆者は2つ目と3つ目の発表内容がよく理解できず、教師も授業後、同様の感想を述べていたが、学生達は非常に興味深く頷きながら発表を聞いていた。教師と学生との世代間ギャップと、日本の最新のポップカルチャーを授業で扱うことのむずかしさを感じた。

5. 中国の大学の「教学大綱」について

中国の大学教育には日本の「教育指導要領」にあたるものがあり、日本語学科の教育大綱としては、2冊の書籍が出版されている。1冊は日本語学科1、2年生の教育に関する『高等院校日語專業基礎段階教学大綱』（2001）であり、もう1冊は日本語学科3、4年生の教育に関する『高等院校日語專業高年級段階教学大綱』（2000）である。

前者は1990年6月発行の改訂版で、その特徴は「社会文化理解能力」の育成にあり、従来の教育内容に「社会文化」という項目が加わった。この「社会文化」とは「対象国の文化知識は、即ち文化を跨ぐコミュニケーション能力の基本内容の一つであり、また、言語規則と密接な関係にあり教育の中にしみ込ませて触れるべきものである」とされている。そして、教育原則には「言語基礎とコミュニケーション能力」が取り上げられており、「コミュニケーションには言語運用能力の他に、社会文化理解能力が求められる。社会文化理解能力の育成は多方面にわたっているが、言語運用に役立つことを前提として、教育の中に適度に社会文化の内容を加える」と書かれている。さらに、教材に関する部分では「基礎段階の教材題材は広範囲でなければならず、同時に比率も適切でなければならない。実践性を重視し、学校、家庭、社会などの題材を主とし、日本社会、文化、風俗習慣および科学普及の一般的知識の文章を適度を選んで組み込まなければいけない」とある。

後者の「大綱」には、3、4年生課程の主要内容は①日本語総合技能、②日本語、③日本文学、④日本社会文化とある。この④日本社会文化の主要科目は「日本文化史」「日本概況」「日本経済」などで、内容は「歴史」「地理」「風俗」「政治」「経済」などである。また、教育目標はこれらの科目を通じて学生に日本文化の主な特徴を把握させ、日本歴史の発展の道筋や政治、経済状況などを理解させることである。授業に対する要望としては、授業は日本語で行うこと、そして重要な点を強調し、過度に細かな説明はせず専門的にならないようにすることが求められている。また、日本文化を教える際には、できるだけ中国文化との比較をおこない、マルクス主義唯物史観を堅持すること、歴史を尊重し事実に基づいて真実をもとめ、学術的視点から大胆かつ詳細に研究し紹介するとある。

後者の大綱で言及されている科目の主要内容は、3.で述べたシラバスの中にすべて盛り込まれており、また、見学した授業から判断しても、個々の授業はこの大綱に沿ったものであると思われる。しかし、実際は教師の得意分野や興味関心により授業内容に違いが見られ、また、学生のニーズも重視されている。そして、上記の社会文化の内容は日本の大学の「日本事情」教育に関する唯一の拠り所である、文部省令第二一号の「日本事情に関する科目としては、一般日本事情、日本の歴史、文化、政治、経済、日本の自然、日本の科学技術といったものが考えられる。」（1962年発令）という記述に極めて近い。

しかし、「文化を跨ぐコミュニケーション能力育成」については、授業の現場ではあまり配慮されていない印象を受けた。

6. 学生インタビューのまとめ

以下に各大学の日本語学科の学生を対象としたインタビューの結果をまとめる。

表1はインタビュー対象者の内訳である¹。対象者は3年生が中心となった。インタビュー

表1 (単位：人)

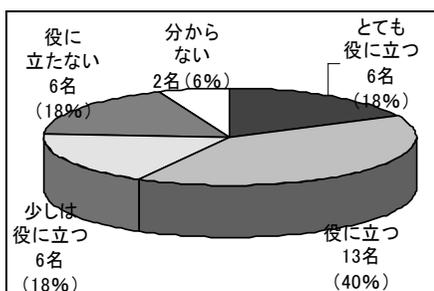
大学	学年			計	性別	
	2年	3年	4年		男	女
A	4	1	6	11	4	7
B	0	3	4	7	0	7
C	0	13	2	15	4	11
計	4	17	12	33	8	25

は2009年9月中旬から下旬に行ったため、1年生は入学したばかりでまだ授業が始まっておらず、2年生は学期初めで授業を受け始めたばかりだったため、対象者はなるべく授業を受講済みの3,4年生としたが、4年生はこの時期インターンシップで大学にいないことが多かった。また、語学専攻のため、女子学生が圧倒的に多くなった。

6-1. 「日本文化の授業は日本文化理解に役立つかどうか」の質問について

グラフ1は、「日本文化の授業は日本文化理解に役立つかどうか」を尋ねた結果を示したものである。「とても役に立つ」と「役に立つ」をあわせると約60%である。以下にそ

グラフ1 文化授業の評価



れぞれの主な理由をまとめる。

- ① とても役に立つ：・歴史（2名）、地理、食べ物等日本についての常識的知識なので役立つ・「日本概況」が一番役に立つ、歴史を先に学ぶことで日本語、日本人について深く理解でき、伝統文化も学べる・「日本概況」がとても役立つ、本の内容を教えるだけだが、他の授業は先生の経験話でお

¹ 他にも日本語専攻の大学院生4名と他専攻の学生2名にインタビューをおこなったが、学生の属性の統一を図るためこの6名は対象外とした。

もしろいと思うだけ・「日本概況」が一番役立つ、教科書内容がすべて日本文化に関する
ことなので・日本はどんな国なのか理解が深まり、経済発展の理由もわかった

- ② 役に立つ：・歴史が学べる（8名）・地理が学べる（4名）・風俗や習慣等内容が深い・
以前はイメージだけだったが、概念的な知識が学べる・日本、日本人の理解が深まった・
生花、茶道、歌舞伎、能、文学、俳句を学んだ・日本語ができるだけでは日本人と交流
できず、文化理解が必要で、系統的な文化教育が役立つ・上下関係、集団意識、政策、
終身雇用を学んだ・文化背景の知識は語学の勉強になる・日本の文学、作家を学んだ・
「日本概況」が日本文化理解により役立つ、他の授業は文法等に重点が置かれる
- ③ 少しは役に立つ：・内容が広すぎる・表面的なことだけを教え一面的である、日本に行
き自分で理解した方がいいが、基礎的知識を知るには役立つ・「日本概況」は和服、政
治、教育等についての知識と生活に関する簡単な紹介・「日本文化論」はむずかしい、
仏教、神道には興味はない・テキストが分厚い 2 冊で先生の説明はそんなに詳しくは
なく、全体的に広く浅い・日本語が聞き取れない・歴史や経済が苦手ですぐ忘れる
- ④ 役に立たない：・勉強した内容を忘れた（3名）・日本語が聞き取れない、中国語で教
えたほうがいい（2名）・時代おくれ、就職に有利な授業に変えるべき・「日本文化論」
は歴史なのでむずかしい・大体知っている内容だったのであまり役立たなかった
- ⑤ 分からない：・1回しか受講していないからわからないが多分役に立つと思う（2名）
以上からわかるように、文化の授業を「役に立つ」とする学生は、主に下線を引いた日
本の「歴史」「地理」「伝統文化」などの基礎的な知識を学べることを評価している。これ
らの項目はすべて3、で取り上げたシラバスの上位トピックである。一方、「役に立たない」
とする学生は、授業の内容が広くて浅い、また、学んだ内容を忘れてしまうと述べている。
また、「分からない」と答えた学生は2人も2年生であるため、1、2回の授業だけでは
評価はできないというものである。

6-2. 日本文化以外の授業について

インタビューでは、「『日本概況』等以外の科目で日本文化について学んだことはあるか。
あれば、どのようなことか」も尋ねた。表2はその科目名とそれを挙げた人数を示したも
のである。各々の科目について学生達にとって印象深かった点やよく覚えているテーマを
以下に示す。なお、「通訳」については特に学生のコメントはなかった。

- ① 精読：・日本への留学経験のある中国人の先生が自分の体験を話した（12名）（食事、
ホームレス、仕事熱心、酒文化、団結、日本人は仕事と娯楽を分ける、観光地、日本人
の考え方、生活、性格、日本商品の使い方、アルバイト、日本人との付き合い方等）・
文章の中に日本文化の要素が入っている（3名）（祭り、本音と建前、諺、交通、経済、
日本人は期待を裏切られるのが怖い、他人や生活や物事に大きな期待を抱かない
等）・鑑真（2名）・電話に出る時おじきをする・内向的、感情を抑える・お笑い芸人・

表 2

科目名	人数
精読	29
ビジネス 日本語	11
会話	10
聴解	9
速読	5
視聴	4
作文	3
語彙	2
外刊	1
通訳	1
翻訳	1

贈答文化・現実的な現代日本の紹介、生活に近い知識、チャンスがあったら使える知識（電車の中では携帯禁止等）・現代日本の状況・年功序列・季節感・先生が単語を詳しく説明する（自動販売機はとて多くて便利、お盆という単語からお盆と祭りの紹介等）・出前・日本三景・日本の学者の文章がのっているので、日本文化の深い所がわかる・日本人が書いた文章、中国人が日本の新聞に載せた文章・経済発展・環境保護意識の高さ

② ビジネス日本語：・礼儀作法（3名）・ビジネスマナー（2名）・名刺交換の方法（2名）・日本の食事（2名）・座り方・内と外の関係・日本企業について・企業文化・言葉づかい・ビジネス用語・商談方法・挨拶のしかた・住居（和室、障子）

③ 会話：・日本留学経験のある中国人の先生が自分の体験を話した（4名）（中国との違い等）・日本で会社勤務経験のある先生が日本人とビジネスをする時の注意点を話した（2名）・マナー

（2）・文章や単語の中に日本文化の要素が入っている（富士山

山に関して天気の変化、高さ、日本の象徴等）・日常生活・会話授業が日本文化授業より文化理解に役立つ・ビジネス・祝日・お見舞い・サービス産業・祭り・忌み言葉

④ 聴解：・経済（2名）・敬語（2名）・仕事・通勤時間・相撲・剣道・書道・日本人の曖昧な話し方、話が半分でおわり、意味がわからない、省略が多い・日本のテレビニュースで行事や祭りを理解・この場合、日本人だったらどうするかという話・電話のかけ方・家（和室、押入れ、畳）・料理の作り方（カレーライス、牛丼）・保険制度・資料の文章の中に日本文化の説明が多い・地理・教育・生中継・挨拶・どのように日本人の話を聞いたら理解できるかを学んだ

⑤ 速読：日本人は無表情、特に早口で話す時は無表情・第1課（日光）では日本の歴史や将軍について学習・寿司・着物・ゲーム・アニメ・コスプレ・メイド喫茶・文章は日本の現状、文化について書いたもの（酒文化、自動販売機等）・日本留学経験のある中国人の先生が自分の体験を話した

⑥ 視聴：・日本のニュース（2名）・NHKの番組（「その時歴史が動いた」等）・総会屋

⑦ 作文：・日本人の先生が自分の子供の生活について話した・文学

⑧ 語彙：・今、中国で使っている単語は日本から輸入・日本留学経験のある中国人の先生が自分の体験を話した

⑨ 外刊（外国の新聞・雑誌など）：・ビジネスの仕方

⑩ 翻訳：・日本留学経験のある中国人の先生が自分の体験を話した

6-1 では「授業は役に立つかどうか」と尋ね、6-2 ではそのような聞き方をしていないため厳密な比較はできないが、学生は日本文化関連以外の授業からも日本文化について

多くを学んでいることが分かった。「日本概況」等の内容と一部重なる事柄もあるが、6-2で挙げられた内容は6-1よりも生活に密着した具体的なものであり広範囲に及んでいる。これらの授業では、「日本留学経験のある中国人教師が自分の留学体験（または仕事経験）を語る」（下線部分）ことが多く、また学生はその内容をよく覚えている。つまり、教師は日本文化以外の授業では教材に盛り込まれているテーマをきっかけに、自分自身の経験を語り、それによって学生に日本文化を理解させようとしているのだといえよう。

また、「文章や単語の中に日本文化の要素が入っている」（下線部分）という意見も複数あった。この点については、5. 大綱の「基礎段階の教材題材は広範囲でなければならず、同時に比率も適切でなければならない。実践性を重視し、学校、家庭、社会などの題材を主とし、日本社会、文化、風俗習慣および科学普及の一般的知識の文章を適度を選んで組み込まなければいけない」とする記述が反映されている。

結論として、「日本概況」等の授業は日本の歴史、地理、経済といった日本についての一般的知識を中心に扱い、それ以外の授業は日常生活を中心にした日本文化を扱う傾向があるといえるであろう。

7. まとめ

今回の調査から今後留意すべき点を挙げる。まず、一つ目は中国人教師の「日本は単一民族である」という発言である。中国は50以上の少数民族を擁し、その感覚からすればアイヌ民族は例外であり、日本の民族構成は極めて単純なのかもしれないが、日本で「日本は単一民族である」と言うと差別発言になる。実際、筆者の「日本人論」の授業で、中国の学生が「日本は単一民族」だと言い、筆者と他の受講生を驚かせたことがあった。しかし、その学生は中国では単一民族だと教えていると反論した。今後はこうした認識を改めてもらうよう働きかけねばいけないであろう。実際、4. の(1)の日本人教師は「日本は単一民族でない」と述べており、また、D大学の日本人教師は授業でアイヌ民族の歴史と現在も残る差別について教えているとのことである。二つ目は、コミュニケーションスタイルの問題である。佐藤（2009）は、米国の日本語教科書を分析し、「日本語学習者に『日本人』のように振る舞うことを奨励している」（p.25）と述べ、「外国語を学ぶときに学習者が納得しないもの、学習者の道徳観、価値観に反するものに関して、学習している国の文化が異なるという理由だけで、教師は学習者にその『文化』を押し付けてしまってもいいのであろうか」（p.25）と疑問を呈している。今回の授業見学でも、日本人の挨拶や礼が強調されていた。しかし、佐藤は学習者が本当に押しつけられていると思っているのかどうかについては言及していない。筆者は、これについては学習者の意思を尊重すべきであると思う。学習者があるコミュニケーションスタイルに対し違和感を持つのであればそれに従わなければよいのであり、メリットがあると思えば活用すればいいのだと思う。そもそも日本人自体が多様であり、全員が同じように行動するわけではない。もちろん、これは活用しない学生が評価で不利にならないことが大前提である。

また、学生インタビューの結果から今後の調査では日本文化以外の授業見学も必要であることがわかった。長谷川他（1998）の調査でも、日本語教育と日本文化教育との境界は定めがたいことが確認されている。今後は、まず「精読」の授業見学が重要であろう。次に多くの学生が挙げた「ビジネス日本語」は、A 大学でも開講されていたなら数字がもっと大きくなっていった可能性が高い。実際、6-2 の①から⑩にはビジネスに関する内容が多く含まれている。上海は日系企業関係の日本人が世界一多く住む都市であり、インタビューからも学生達は日系企業への就職を希望していることがわかった。このようなニーズがあるため、大学でもビジネス関係の授業が開講されているのであろう。今後、「ビジネス日本語」の授業見学も必要であると思われる。

最後に、やはり「日本人」や「日本文化」の多様性を念頭に置かねばならない。特に海外で日本文化を教える時は、この多様性が抜け落ちステレオタイプの日本文化理解になる傾向が強い。しかしながら、こうした多様性は認めながらも相対主義に陥らず、クリティカルな視点をもつことも同じく重要であることは指摘しておきたい。これらの留意点を土台に、今後の調査と分析を行う必要があるだろう。

注記：本研究は科学研究費補助金（課題番号：21520529）の助成を受けたものである。

参考文献

- 教育部高等学校外語專業教学指導委員会日語組編（2001）『高等院校日語專業基礎段階教学大綱』大連理工大学出版社
- 教育部高等学校外語專業教学指導委員会日語組編（2000）『高等院校日語專業高年級段階教学大綱』大連理工大学出版社
- 佐藤慎司（2009）『『日本人のコミュニケーションスタイル』観とその教育の再考』『リテラシーズ』4 pp.19-32 くろしお出版
- 『詳説日本史』日本史 B 改訂版（2007）山川出版社
- 『日本史 B』改訂版（2008）清水書院
- 長谷川恒雄他（1998）「諸外国における『日本事情』教育についての基礎的調査研究」1995 度～1997 年度科学研究費補助金研究成果報告書（国際学術研究 課題番号 07041023）
- 叶渭渠（2005）『日本文化史』第二版 広西師範大学出版社
- 苑崇利編著（2008）『日本文化概観』外語教学与研究出版社
- 武心波（2001）『当代日本社会与文化』上海外語教育出版社

（この りえ 社会学研究科講師）